

令和 6 年度 篠井小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

感性豊かで、ともに生きることを喜び、よりよい自己と社会のために考え、行動する児童の育成
 健康で明るい子ども （きたえる） よく考え 自ら学習する子ども（かながえる）
 すなおで親かな子ども （たすけあう） 根気よく働く子ども （がんばる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

篠井小学校の歴史と伝統を重んじながら、全教職員の使命感と協働の精神を基盤として、次代を担う子どもたち一人一人が、未来社会において多様な人々と共生しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていけるよう「心豊かでたくましく生きる力」を育む教育に取り組み、学校・家庭・地域が英知と熱意を結集し、一体となって「一人一人のよさが輝く活力あふれる楽しい学校」を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 教育目標達成に向けた特色ある教育課程の編成と更新

教育目標の達成に向けて、最新の教育研究の動向を見据え、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮しながら、地域の教育力を生かした創意工夫ある教育課程を編成し、特色ある教育活動を推進する。また、教育課程を常に評価し、よりよいものへと更新していく。

(2) 学校職員の資質の向上

学校職員が崇高な使命を自覚し、人間性と専門性、指導力の一層の向上に努めるよう環境を整え、研鑽を促す。その際、超過勤務の縮減など業務の改善を推進する。（学校職員の資質の向上）

(3) 人権尊重の精神に貫かれた学校経営の実現

(4) 職員一人一人の創意が生きる民主的な学校運営

学校経営のビジョンを明確に示し、全職員と共有し、教育活動や学校運営などの方策においてボトムアップ型の提案が増やす。

(5) 「地域とともにある学校」づくり

○保護者・地域・学校園内の学校及び各種団体、関係諸機関など、「チーム篠井小」との連携を密にし、「地域とともにある学校」づくりに努める。その際、保護者や地域に対して積極的に情報を共有し、信頼される学校を目指す。

〔晃陽地域学校園教育ビジョン〕

未来を見据え、地域と連携し、子どもが生き生きと学ぶ晃陽地域学校園

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、学習指導要領に基づき、栃木県教育振興基本計画、第2次宇都宮市学校教育推進計画等を踏まえ、各教科等の目標を達成、ひいては初等教育の目標を達成できるよう、必要な教育内容を組織的に配列する。また、今日的な社会の課題を解決するために必要な資質・能力を育成できるよう各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科等横断的な視点で教育の内容を組織的に配列する。
- (2) 教育目標である「感性豊かで、ともに生きることを喜び、よりよい自己と社会のために考え、行動する児童の育成」を実現するため、全人格的な陶冶をめざす教育課程を編成する。
- (3) 基礎的・基本的な知識及び技能及びこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、学びの原動力となる主体的に学習に取り組む態度をバランスよく養い、児童の生きる力、生涯にわたって学び続ける力を育む。
- (4) 児童の心身の発達の段階及び地域や学校の実態を考慮しながら、体験を通して学ぶことを重視するとともに、保護者や地域、専門家・関係諸機関等との連携・協働により社会に開かれた教育課程を編成する。
- (5) 小中一貫教育カリキュラムに基づき、保護者や晃陽地域学校園内の各学校と連携を図りなが

ら、義務教育9年間を見通した系統的な教育課程を編成する。

- (6) 前年度の教育課程について分析・評価し、校内各種計画と関連付けながら教育課程を改善することに組織的に取り組み、カリキュラム・マネジメントの確立、教育課程の一層の質的向上に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

○ 学力の向上

基礎・基本の確実な習得と思考力・判断力・表現力等を育むために、学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくり、児童の学習習慣の確立に努める。

○ 豊かな心の育成

「特別の教科道徳」や体験活動を核に、あらゆる教育活動を通して、生きる基盤となる道徳性を養うとともに、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を推進する。

○ 児童指導の充実

基本的な生活習慣の確立、自己有用感と規範意識の醸成、望ましい人間関係と社会性の育成を図る児童指導の充実に努める。

○ 健康・安全教育の充実

生涯にわたって健康で安全で活力ある生活を実現する力を育むために、自らの身を守るための行動力や判断力の育成、心身の健康や体力の増進、望ましい食習慣の確立に努める。

(2) 学習指導

主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う児童の育成

～生活科・総合的な学習の時間の学習活動を通して～

(3) 児童生徒指導

基本的な生活習慣を身に付け、よりよい学校生活にするため自ら考え行動に移すことのできる児童の育成

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

- ・自己の健康・体力に関心を持ち、進んで体力の向上に励む児童の育成

—運動の日常化を図るための教科体育と外遊びの工夫—

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① ペア学習やグループ学習を意識的に取り入れていくことにより、児童が他者と協力したり、情報を集めて考えを深めたりしながら学習に取り組めるようにする。 ② 児童の興味・関心のある教材を用いたり、課題の設定の仕方や発問を工夫したりし、主体的に学習に取り組めるようにする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答：90.7% 教職員の肯定的回答：100% 教職員による授業形態の工夫や教材研究が行われており、児童も主体的に授業に臨んでいた。 【次年度の方針】 一人一人の意欲や達成感を大切にしながら学習課題や形態についての工夫を行い、主体的に学習に取り組むことのできる雰囲気づくりを行ったうえで、分かりやすい授業や個別最適化がなされた指導の充実に努める。

1-(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 生活の中で、時と場に応じた適切な言葉使いの指導を推進する。(ふわふわ言葉の推奨) ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 児童会活動やふれあい班等による異学年交流を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答：87.2% 保護者の肯定的回答：91.7% 児童は数値目標を若干下回ったが、保護者は数値目標を達成した。思いやりの気持ちをもって行動している児童が多いと考えられる。 【次年度の方針】 人権週間や地域との交流活動を通して、相手の立場を考えて生活することの大切さを指導するとともに、異学年交流を推進することで、互いに思いやる心の醸成を図る。また、日頃から挨拶や適切な言葉遣いを指導する。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 学校生活において児童の主体的な活動を推進し、目標等を設定させるとともに、振り返りを充実させ、褒め合う活動を取り入れることで、意欲の持続や高揚を図る。 ② 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。	【達成状況】 保護者の肯定的回答：76.3% 数値目標を下回った。今年度は、児童の主体的な活動を推進するとともに、学校行事等においてキャリアパスポートを活用して目標を設定し、振り返りを充実させる活動に努めた。 【次年度の方針】 児童の実態に合わせた目標を設定することで、夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲を高められるようにキャリアパスポートの活用を継続して行い、各種たよりや学年HPを活用して保護者への周知を図る。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 警察署や駐在所、消防署の方と連携した防犯教室、避難訓練を実施し、防犯・防災意識を高め、適切な意思決定と行動選択ができるようにする。また、大規模自然災害時の引き渡し訓練等、保護者との連携体制の強化に努める。 ② 食育だより、保健だよりを毎月1回発行し、栄養面を含め食育や健康に対する家庭の意識の高揚を図る。 ③ 健康的な生活習慣の確立に向け、家庭科や保健の授業で、栄養士や養護教諭と連携し、授業を行い、各種便りに掲載することで家庭へ啓発を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答：87.2% 保護者の肯定的回答：79.5% 児童が主体的に安全について意識でき、適切な意思決定と行動選択ができるような避難訓練を実施した。 食育だよりや保健だよりのほかに、献立表や行事食、健康に関する情報などの校内掲示の充実を図り、児童や保護者に啓発した。 【次年度の方針】 家庭科や保健の授業で、栄養士や養護教諭を活用した授業を積極的に行い、職員が連携して全校体制で取り組むとともに、各種たよりや学校HP等を活用し、保護者への啓発を行う。

1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童の活躍の場を設け、児童同士が認め合えるようにするとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② キャリアパスポートを活用し、自分自身が様々な活動を通して成長していることを実感できるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答： 89.5% 帰りの会で友達のよいところを伝えたり、授業においてそれぞれの意見を尊重し合える雰囲気づくりを心がけたりした。 【次年度の方針】 児童の自己肯定感を高め自信をもって活動に取り組むことができるよう、個々の実態に応じた活躍の場や振り返りの機会を設ける。また、児童同士が互いのよさを見つけ、認め合う活動を積極的に設定する。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動(英語活動)に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。 ③ 学習内容を生かせるような体験的な集会活動や行事などを取り入れる。	【達成状況】 児童の肯定的回答： 86.0% 教職員の肯定的回答： 100% 児童・教職員ともに数値目標を達成している。これは高学年の外国語、低中学年の外国語活動の授業が計画的に行われていることの表れであると考える。 【次年度の方針】 イングリッシュ集会を実施するなどして、児童が英語を使ってコミュニケーションを図ることのできる場の設定の充実を図る。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上	① 現職教育に『宇都宮学』に関する研修を位置づけ、教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるとともに、総合的な学習の時間における『宇都宮学』の内容の充実を図る。 ② 各種たよりや HP 等を通して、『宇都宮学』に関する取組を積極的に保護者や地域に発信し、地域や宇都宮の良さに対する理解を深めさせる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答： 93.3% 保護者の肯定的回答： 58.3% 教職員の肯定的回答は数値目標を達成したが、保護者の値は昨年度を下回った。篠井地区や宇都宮についての学習を学年に応じて行ってきたが、各家庭においてそれらの実感が得られていないものと推察する。 【次年度の方針】 各種たよりや HP 等を通して取組内容をより積極的に保護者に示す。また、5・6年生は総合的な学習の時間における『宇都宮学』の内容の充実を図る。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童が端末を時と場合に応じて 適切に使える能力を育成できるよ う、授業において積極的にI C T機 器を活用する。 ② 各学年の授業内容との関連に配 慮した教育図書の整備充実等、学校 図書館の環境整備に努めるととも に授業において学校図書館司書の 積極的な活用を図る。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、 図書だよりの発行などを通して児 童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：100% 学年に応じて差はあるものの、1人1 台端末に慣れ親しみ、授業において積極 的にI C T機器を活用することができ た。また、学校図書館司書と連携し、図 書室を活用することができた。 【次年度の方針】 ICT支援委員から学ぶ時間を確保し、 ICT教育において、指導力の向上を図 る。また、各学級の担任同士で情報交換 する時間も確保をする。引き続き、学校 図書館司書や図書委員会を中心に、読書 活動を推進していく。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的回答 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 総合的な学習の時間における環 境教育や「みやエコスクール」等を 通して、環境問題への関心を高め、 環境と調和しながら生きる意識や 態度を育成する。 ② 環境教育年間指導計画に基づき、 全教育活動を通して計画的に実施 する。 ② 授業などで、SDG'sの書籍や掲示 物等を通して「持続可能な社会」に ついて紹介し、学ぶ機会を設ける。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：86.7% 高学年では、授業や教室環境等で SDGsについて触れ、興味関心を高めた。 【次年度の方針】 5年生の総合的な学習の時間を中心 に環境教育を充実させる。また、環境委 員会を中心として、生活の中で、節水節 電などを呼び掛け、環境と調和ながら 生きていくことの意識や態度の育成に 努める。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児 童指導主任を中心に、全校で特別な支援 が必要な児童に関する共通理解を図り、 一人一人のニーズを踏まえた支援 を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、 通常の学級においても、必要に応じ て個別の支援計画を作成し、それに基づ く合理的な配慮を伴う指導に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：93.3% 特別支援教育コーディネーターと児 童指導主任を中心に配慮の必要な児童 の共有を図ることができた。 【次年度の方針】 通常の学級における特別支援教育を 推進し、児童のニーズに応じた合理的配 慮を実施していく。

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 道徳の授業や学級活動において、生命尊重やいじめを題材にした授業を、全クラスが学期に1回実施する。また、学校生活全体を通して、自分の大切さとともに他の人の大切さを理解させる。 ② いじめゼロ強調月間（年2回）を設定し、いじめゼロ集会の開催や児童から募集した標語等の掲示を行い、行事・係活動等を通して、思いやりの心をもって助け合うことの大切さを理解させる。 ③ 異学年交流活動等の中で、複数の教職員が児童の様子を観察することを通して、いじめの早期発見と迅速な対応に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答：95.3% 保護者の肯定的回答：87.9% 各担任が中心となり、学校生活全体を通していじめが絶対に許されない行為であることを指導した。また、教職員間で日頃から児童の情報共有を行ったことで、いじめの早期発見と迅速な対応に努めた。 【次年度の方針】 引き続き、全クラスが学期に1回、道徳の授業や学級活動において生命尊重やいじめを題材にした授業を実施し、いじめゼロ集会や標語の掲示などの行事等を通して、児童が思いやりの心をもって助け合うことの大切さをとらえられるようにしていく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 担任は、いがいのあるクラスづくりに努め、児童が自己有用感をもてるようにする。 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体での情報共有を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答：94.4% 各担任は教育相談やアンケートを適切に実施し、個別に相談にのったり、校内全体での情報共有を図ったりすることができた。 【次年度の方針】 引き続き、不適応傾向のある児童や不登校の兆候がある児童に関して学校全体で情報共有を図り、保護者との連絡を密にすることで早期解決に努めていく。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 創意ある活動の時間を教育課程に位置付け、教育活動にゆとりと広がりを持たせるようにする。 ② 学校行事や縦割り班活動等は、ねらいや役割を明確にした計画や指導の工夫に努め、児童が主体的かつ生き生きと活動できるようにする。また、各種便りを活用し、児童の様子がより保護者に伝わるようにする。	【達成状況】 保護者の肯定的回答：94.3% 学校行事やふれあい班活動など、ねらいや役割を明確にし、計画や指導の工夫に努め、児童が主体的かつ生き生きと活動できるようにした。 各種たよりや掲示物を活用し、児童の様子が保護者に伝わるようにした。 【次年度の方針】 各担任が日頃から、児童一人一人が自己肯定感をもてるような指導を行い、学級の問題について、自分達自身で解決方法について考え、話し合うなど、よりよいクラスづくりが行えるように支援していく。 引き続き、適切な場面で教師が支援や指導を行い、児童のよりよい人間関係の構築に努めていく。

4－(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等の能力を育成するために、学習内容に応じた学習形態の工夫や教材・教具の工夫を図り、個に応じた学習指導を充実させていく。 ② 宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」を手立てとして、課題の提示の仕方・課題解決の方法・学習の振り返りを適切に行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、指導・支援に当たる。	【達成状況】 児童の肯定的回答：94.2% 分かる授業を実践するため、教材研究を行ったり、習熟度別学習やＴＴを活用して授業を展開したり、かがやきルームと連携した学習指導を行ったりなど、様々な指導の工夫を行ってきた。 【次年度の方針】 さらなる指導力の向上に努め、児童の授業に向かう積極的な態度を育むとともに、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実に努める。
4－(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 教員と専門性を有するスタッフとの間で、それぞれの役割を明確にし、連携・分担を適切に行い、学校の教育力が向上するようなコミュニケーションに努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：93.3% 教職員は互いにコミュニケーションが取れていると実感している。 【次年度の方針】 今後はさらに、良好なコミュニケーションを授業力の向上や学力向上につなげるように努める。
4－(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識するとともに、校務分掌の見直しや人員の配置を工夫し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 専門性を生かした教育活動を充実させ、「チームとしての学校」を推進し、学校内外の多様な人材が能力を発揮し、それぞれの専門性を活かした活動を展開する。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：100% 全職員が勤務時間を意識し、業務の効率化に取り組んでいると答えており、目標を十分達成できたと言える。 【次年度の方針】 働き方改革については、社会全体の課題であり、継続して取り組む必要があると考える。教職員の分掌配置については今年度の実態を来年度に生かしていく。また、今年度と同様に地域とのつながりを大切に授業を展開していく。さらに、次年度は③の内容についてその運用の工夫に努める。
5－(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 学習習慣確立のために晃陽地域学校園として設定した「あいさつ・返事・姿勢」について、小中9年間継続指導を行う。 ② 6年生の中学校訪問の機会をとらえて小中交流活動を行う。 ③ 学校だよりや学校園だよりを活用し、取組の内容を、積極的に発信するとともに、地域や家庭においても協力してもらえるように啓発する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答：84.4% 数値目標を若干下回っているが、地域学校園活動の中で①②については連携しながら実施できた。また、児童への啓発や実施後の情報発信などに取り組んだ。 【次年度の方針】 ③の学校園だよりの発行が滞っていたことを踏まえ、内容について吟味するとともに、学校園の連携をさらに図っていく。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 地域協議会各部会活動と連携し、学校運営の充実を図る。 ② 学校ボランティアの活用やふれあい活動の推進など、地域と連携した教育を積極的に実践する。 ③ 出前授業や民間企業と連携した活動を年計に位置付ける。 ④ 授業参観、フリー参観及び学校行事を活用して学校の取組を披露することで、学校・家庭・地域が一体となって児童を育てる雰囲気を作成する。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答：85.7% ①の地域協議会活動については、今年度より部会を再編成し、活動の活性化を図ってきた。②は本校の特色でもあり十分実践できている。③についても積極的に取り入れた。④については保護者や地域の方とのふれあいに重点をおいて行ってきた。 【次年度の方針】 今後も各種たよりを活用し実践内容について情報を発信し、活動について周知を図る。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等のチェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答：91.7% 目標の数値を達成できた。これは多くの保護者が、来校した際に安全な学校づくりを実感できていた結果であると思われる。 【次年度の方針】 児童をはじめ、学校を利用するすべての人が安心安全に過ごせるように、引き続き、定期的な点検や修繕を行う。また、教職員はもちろん児童自身が安全について意識しながら生活できるように支援していく。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 授業において、ICT機器を適切に活用している。 ② ICT支援員と連携し、機器の整備や児童への指導を行っている。 ③ 学級担任同士で連携し、ICT教育の活用の仕方を話し合う時間を確保する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答：100% 学級担任同士で連携し、ICT教育の活用の仕方について話し合う時間を確保し、良かった実践を取り入れるなどして、授業で活用する事ができた。 【次年度の方針】 ICT支援員と連携し、機器の整備や児童への指導をするだけでなく、実際に授業を行い、学級担任同士で共有する時間を確保する。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 ○児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 児童を主体とした年4回のあいさつ運動を実施する。地域学校園においても、年2回、時期を合わせてあいさつ運動を展開する。振り返りカードの活用や表彰により実践意欲を高める。 ② あいさつの意味や大切さについて考えさせる機会を設定し、進んであいさつをしようとする態度を育てる。	【達成状況】 児童の肯定的回答： 94.2% 教職員の肯定的回答： 100% 保護者の肯定的回答： 84.2% 児童、教職員において数値目標を上回った。あいさつ運動を年4回行い、そのなかでも、自主的にあいさつ運動を行えるような日を設定したり、日頃からあいさつについて継続的に指導したりしてきた。 【次年度の方針】 校内での活動や地域学校園での活動などに引き続き取り組んでいく。また、各種たよりや学校 HP 等を活用して保護者に周知していくことで、学校・家庭・地域が一体となって活動を継続していきけるようにしたい。
	B 2 ○児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 全職員の共通理解に基づき、基本的な生活習慣の形成と社会規範及び責任を果たそうとする態度の育成に努め、「篠井小よい子の約束」を確認する。 ② 生活目標の達成を目指し、振り返りによる指導も徹底する。 ③ 授業、学校行事など毎日の生活の中で、時と場に応じた態度や行動の指導を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答： 87.2% 教職員の肯定的回答： 100% 保護者の肯定的回答： 94.6% 児童、教職員において数値目標を上回った。これは、地域学校園での共通課題や「篠井小よい子の約束」を確認する機会を設け、生活目標を意識した生活の習慣化を図った成果であると考えられる。また、日頃から、時と場に応じた態度や行動について教職員全体で指導してきた。 【次年度の方針】 日頃の指導に加え、全校集会や集団下校など児童全員が集まった際を利用するなどして、生活目標や決まりを確認する機会を設けて、児童の規範意識の醸成を図っていく。
	B 3 ○児童は地域のよさを理解して様々な人々とふれあいを大切に、地域に愛情や誇りをもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① ふれあい活動やみどり活動、たんぽぽの会による読み聞かせなど、地域の方による活動に進んで参加し、感謝の気持ちがもてるようにする。 ② 生活科や社会科の校外学習、特別活動などを通じて、篠井地区について理解し、風土や歴史、地域の人々に対して、愛情や誇りをもてるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答： 93.0% 教職員の肯定的回答： 100% 保護者の肯定的回答： 86.1% 児童並びに教職員については数値目標を達成している。これは今年度、「地域」を意識した授業を展開した成果であると言える。 【次年度の方針】 今後は授業参観や各種たよりを活用し、活動内容について、保護者にも情報を発信したい。

	【数値指標】 B 4 ○児童は生活をする中で、見通しをもって計画的に物事を進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。 【数値目標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 学習や生活の場面で、目標をもち、見通しをもって、計画的に物事を進めている。 ② 学習や生活の場面で、問題が生じたとき、それまでのやり方を見直し、より良い方法について考え、改善しようとしている。 ③ 各種たよりや HP 等を通して取組内容を積極的に保護者に示している。	【達成状況】 児童の肯定的回答： 82.6% 教職員の肯定的回答： 100% 保護者の肯定的回答： 67.6% 教職員の肯定的回答は 100%であった。児童自身も 82.6%と 8 割を超えているが保護者の値は 67.6%と低い値であった。児童と保護者との差については捉え方の違いがあると思われる。 【次年度の方針】 児童が目標や見通しを持って計画的に物事を進めていくために、個の実態に応じた声掛けや、掲示物の工夫などの支援を行うことで習慣化を図っていく。又、積極的に情報を発信していきたい。
--	--	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 全体的に肯定的な回答の割合が多く、ほぼ指標を達成した。
- ・ 教職員の肯定的な回答は 24 項目中 20 項目で 100%であり、残りの 4 項目も 90%を超えている。
- ・ 児童の肯定的な回答の割合も 9 項目で 9 割を超え、残りの項目も 8 割を超える結果となった。
- ・ 保護者の回答は項目により値に幅があった。特に A12 の「学校は不登校を生まない学級経営を行っているか」と A13 「学校は一人一人が大切にされ活気があり明るく生き生きとした雰囲気」 B2 「児童は決まりやマナーを守って生活」の項目への肯定的回答は 94 ポイントを超えている反面、A7 「宇都宮のよさを知っている」の項目へは昨年度と同様 6 割を切り 58.3 ポイントだった。
- ・ 地域住民の肯定的な回答の割合も全 11 項目中 9 項目で 100%であった。今年度は特に地域の方との交流活動に力を入れてきた結果であると考え、B3 「児童は地域の様々な人々とのふれあいを大切に活動をしている」への保護者の肯定的回答が昨年度より 8.5 ポイント上昇し 86.1 ポイントとなった。地域協議会だよりや学校だより等で学校の様子を理解してもらったことが高い評価につながったと思われる。

7 学校関係者評価

- ・ 児童の自己評価の値が、昨年度に比べ低くなっているが、全項目で 8～9 割を超えておりおおむね良好であると感じる。
- ・ A8 の「デジタル機器や図書を活用して学習しているか」の項目で、児童の肯定的回答が 91.9 ポイントだったのに対し、保護者は 69.2 ポイントと差があった。デジタルや図書の活用についての現状が保護者に伝わっていないのではないか。
- ・ A5,10 の項目については教職員が 100 パーセントになるよう学校も頑張ってもらいたい。
- ・ A11 の「教職員はいじめが許されない行為であることを指導しているか」の項目で、地域住民の肯定的回答が 75.0 ポイントであった。母数が少なかったのかもしれない。どういう判断だったのか。うわさを聞いたのか。もし地域の住民がそのような話を聞いたとしてもなかなか指導（地域住民による）するのは難しい。
- ・ A12 の「不登校を生まない学級経営」、13 の「学校は一人一人を大切にしているか」の項目での保護者の肯定的回答のポイントが昨年度に比べ上がっている。保護者は自分の子供を通して学校を見ている。良い傾向だ。半面児童は昨年度より 6.8 ポイント下がっている。悩んでいるが保護者に相談できていない児童がいるかもしれない。
- ・ B1 の「児童が挨拶をしているか」項目について児童の肯定的回答は 94.2 ポイントであった。一方で地域住民は昨年度より 11.1 ポイント下がっている。見知らぬ人には挨拶をしなという世の中の流れなのかもしれない。
- ・ B3 の「地域とのふれあい」に対する保護者の肯定的回答が昨年度に比べ上がっている。これは地域との交流活動が親子ふれあい活動と合わせて行われるようになった結果だと思われる。
- ・ B4 の「児童が見通しをもって物事に取り組んでいるか」の項目への児童の肯定的回答が 82.6 ポイントだったのに対し、保護者は 67.6 ポイントと低くなっている。感じ方の違いによるものなのではないか。その要因を把握するのもよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

数値を参考にしながらも、一人で悩んでいる児童がいるかもしれないという前提に立ち、誰一人として取りこぼさないよう、児童との信頼関係を構築するとともに、保護者と連携し、全職員で児童への適切な関わりや支援を行っていきたい。

学校関係者評価において、客観的な立場で学校運営に寄せていただいた意見を真摯に受け止め、来年度も対応にあたっていきたい。次年度の方針にも記したが、体験的な活動を充実させ、学校の取組について積極的に情報発信し、保護者や地域の方からの学校教育活動への理解をさらに深めていく必要がある。